



平成24年9月28日

エアゾール缶は使い切って捨てましょう！

～ 廃棄のための穴あけで火災が発生しています ～

エアゾール缶等を処分するために穴をあけて発生した火災が、平成19年～平成23年の5年間で110件発生し、負傷者が109人発生しています。本年も、8月末現在で同様の火災が17件（速報値）発生し、負傷者が14人発生していることから、東京消防庁では、エアゾール缶等の取扱いについて注意を呼びかけています。

【エアゾール缶等とは】

●可燃性ガスを噴射剤とした殺虫剤、整髪剤及び消臭剤等のエアゾール缶と簡易型ガスこんろの燃料として用いられるボンベを合わせています。

【火災発生状況】

●使い残しや残ガスを排出するため、ドライバーや缶切り等で缶に穴をあけた際、噴出したエアゾール缶内の残存ガスが、近くで使用していたガステーブル等の炎に引火する火災が発生しています。ガスに引火すると炎が急激に拡大するため、けが人が多く発生しています。

●最近5年間（平成19年～23年）で発生した110件の火災で、負傷者が109人と非常に多く発生しています。そのうち103人が漏れたガスに引火した炎で顔や腕などをやけどしています。

●昼食や夕食の食事を準備する時間帯に多く発生しています。また、成人女性がガス調理器具を使用中に穴あけを行い、火災が発生する事例が多くなっています。

【火災を防ぐために】

●エアゾール缶等を廃棄する場合は、穴をあけずに必ず中身を使い切り、各区市町村が指定する廃棄方法に従って捨てましょう。

●使い切れずにやむを得ず捨てる時は、火の気のない通気性の良い屋外で残存ガスがなくなるまで噴射して廃棄しましょう。

●穴をあけて廃棄しなければならない場合は、中身がないことを確認し、火気のない屋外の風通しの良い場所で穴をあけて廃棄しましょう。また、屋内でのエアゾール缶等の穴あけはやめましょう。

※ 詳細は、別紙資料を参照してください。

問合せ先

東京消防庁 (代) 電話 3212-2111
予防部調査課 内線 5062 5066
広報課報道係 内線 2345~2350



1 エアゾール缶等の穴あけによる火災状況

最近5年間（平成19年～23年）のエアゾール缶等の穴あけに係わる火災は110件で、負傷者が109人と非常に多く発生しています。本年は、8月31日現在で17件発生し、負傷者が14人発生しています。（表1参照）

表1 最近5年間のエアゾール缶等の穴あけによる火災状況

年 別	建 物			焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者 (人)	負 傷 者 (人)
	合 計	部 分 焼	ぼ や					
19	17	-	17	-	-	1,024	-	20
20	26	-	26	-	-	511	-	22
21	21	-	21	-	-	300	-	17
22	23	2	21	74	3	10,756	-	30
23	23	-	23	-	-	86	-	20
合計	110	2	108	74	3	12,677	-	109
24	17	1	16	1	-	69	-	14

※1 合計欄の数値は、平成19年から平成23年の合計値です。

※2 平成24年の数値は8月31日現在の速報値で、後日変更される場合があります。（以下同じ。）

2 穴あけによる火災の発生状況

最近5年間（平成19年～平成23年）について火災の発生状況を見ると、食事の準備などでガステーブルなどのガス調理器具を使用中にエアゾール缶等の穴あけをしたため、ガステーブルなどの炎が漏れたガスに引火した火災が65件発生し、およそ6割（59.1%）を占めています。本年は14件発生しており、穴あけによる火災の8割以上を占めています。（図1参照）

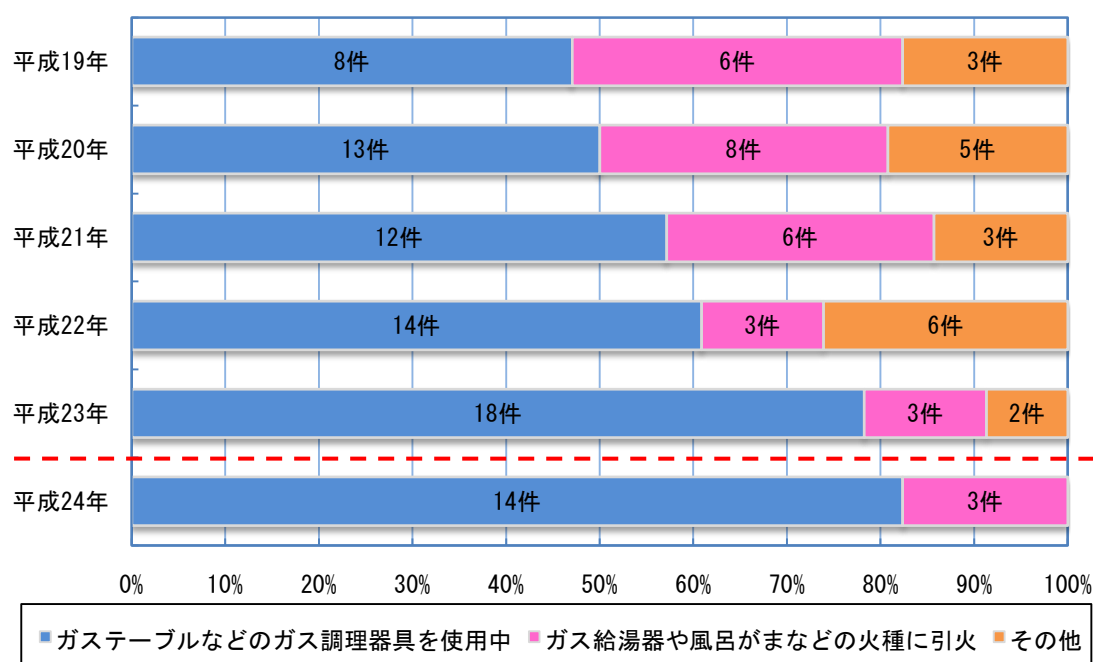


図1 穴あけにより発生した火災の発生状況

3 建物用途別火災発生状況

最近5年間（平成19年～平成23年）における建物用途別の火災発生状況をみると、住宅や共同住宅等の居住系用途から出火した火災が87件発生しており、全体の8割近く（79.1%）を占めています。また、居住系用途における発生要因をみると、ガス調理器具を使用中に発生した火災は55件で、6割以上（63.2%）を占めています。（図2参照）

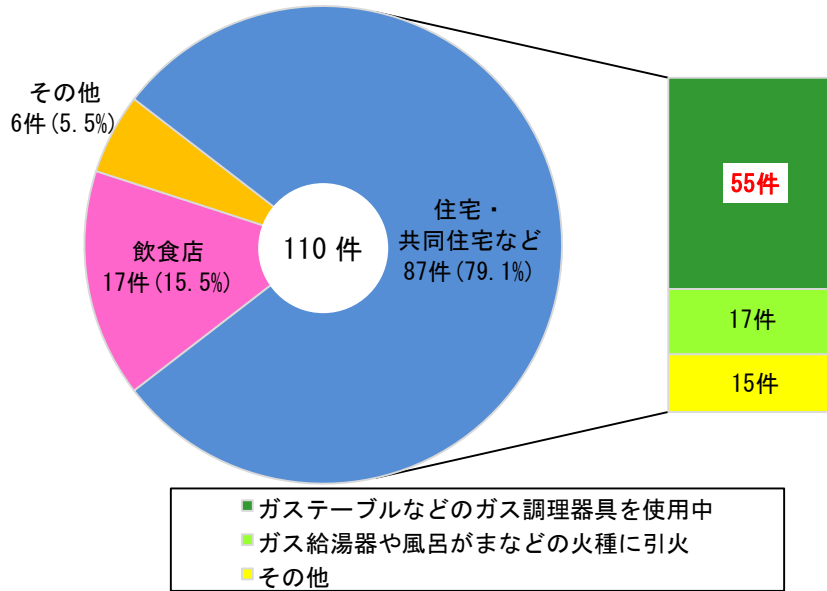


図2 建物用途別の火災発生状況

4 居住系用途の出火場所別火災発生状況

最近5年間（平成19年～平成23年）における住宅や共同住宅などの居住系用途から出火した火災87件を出火場所別でみると、「台所」から出火した火災は71件で、全体の8割以上（81.6%）を占めています。（図3参照）

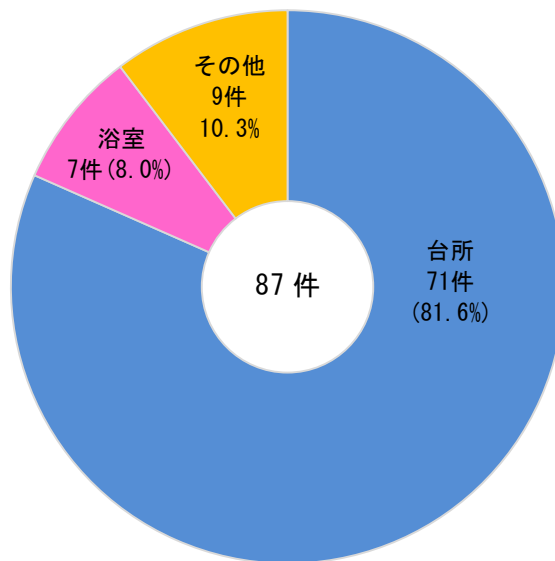


図3 出火場所別火災発生状況

5 負傷者の受傷状況

最近5年間（平成19年～平成23年）で発生した負傷者は109人で、受傷程度別で見ると、入院が必要な中等症以上（中等症、重症、重篤、以下同じ）の負傷者が49人で、負傷者の4割以上（45.0%）を占めています。

発生要因別で見ると、「ガス調理器具を使用中」が66人と最も多く、全体の6割以上（60.6%）を占めています。（表2参照）

表2 発生要因別負傷者の受傷状況

発生要因	受傷程度				
	合計	重篤	重症	中等症	軽症
ガステーブルなどのガス調理器具を使用中	66	1	3	23	39
ガス給湯器や風呂がまなどの火種に引火	24	-	2	8	14
その他	19	1	4	7	7
合計	109	2	9	38	60

負傷者の受傷状況を見ると、やけどによる負傷者は103人で、負傷者の大部分（94.5%）を占めています。

やけどによる受傷部位では、顔が35件（34.0%）ともっとも多く、次いで腕が26件（25.2%）、手が16件（15.5%）となっています。（図4参照）

さらに受傷程度を見ると、中等症以上の負傷者が47人で、4割以上（45.6%）を占めています。（表3参照）

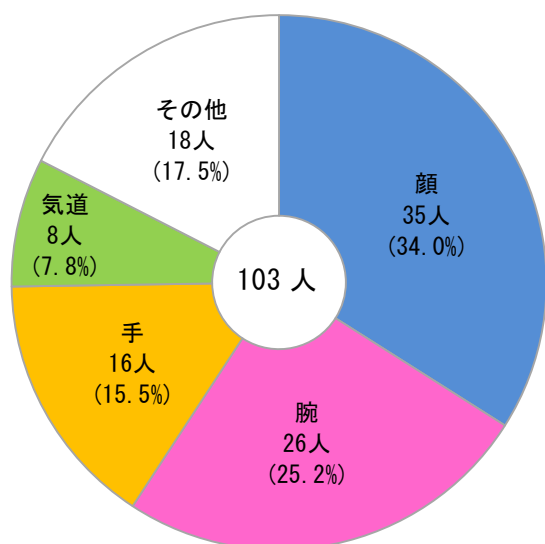


図4 やけどによる受傷部位

表3 やけどによる受傷状況

受傷程度	合計	受傷部位				
		顔	腕	手	気道	その他
重篤	1	-	1	-	-	-
重症	9	6	1	-	1	1
中等症	37	12	8	2	6	9
軽症	56	17	16	14	1	8
合計	103	35	26	16	8	18

6 行為者の男女別・年代別の発生状況

最近5年間(平成19年～平成23年)の行為者を男女別で見ると、男性が46人(41.2%)、女性が59人(53.6%)で、女性が半数以上を占めています。さらに女性の年代をみると、「成人」が50人と女性の8割以上を占めています。

成人女性を発生要因別で見ると、「ガステーブルなどのガス調理器具を使用中」が39人で、6割以上(64.2%)を占めています。成人女性がガス調理器具を使用中に穴あけをして、火災が発生している事例が多いことがわかります。

表4 行為者の男女別・年齢別発生状況

発生要因	合 計	行 為 者 年 代									
		未 成 年			成 人			高 齢 者			不 明
		小 計	男 性	女 性	小 計	男 性	女 性	小 計	男 性	女 性	
ガステーブルなどのガス調理器具を使用中	65	-	-	-	56	17	39	7	3	4	2
ガス給湯器や風呂がまなどの火種に引火	26	-	-	-	23	15	8	3	1	2	-
その他	19	1	1	-	8	5	3	7	4	3	3
合計	110	1	1	-	87	37	50	17	8	9	5

※ 高齢者:65歳以上、成人:20歳～64歳、未成年:19歳以下

7 時間帯別火災発生状況

時間帯別の発生状況(出火時間が不明なものを除く)をみると、18時～20時台が28件で最も多く、次いで12時～14時台が20件などとなっており、昼食や夕食時などの食事の準備をする時間帯に多く発生しています。(図5参照)

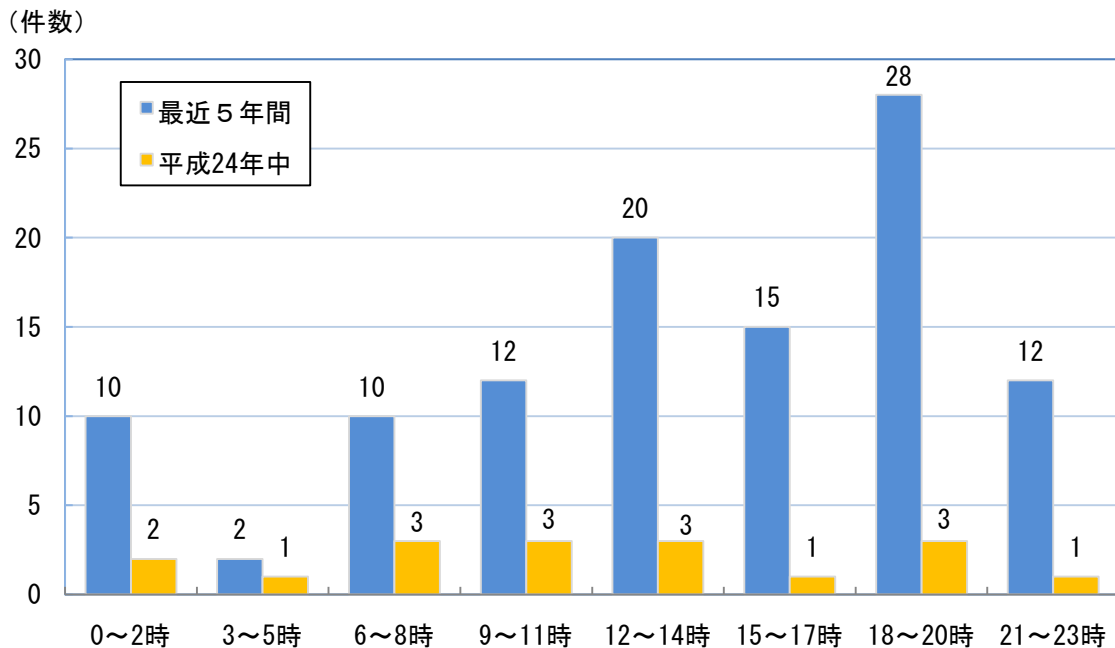


図5 時間帯別発生状況

【火災事例】

事例1 殺虫剤の穴あけにより発生した火災

(平成23年11月・世田谷区・住宅)

居住者の40代女性が、台所でガステーブルを使用中にガステーブル横のシンクで殺虫剤の残り薬剤を捨てようと缶に穴をあけたところ、ガステーブルの炎が、噴出したガスに引火して出火したものです。この火災により、行為者の女性が引火した炎の熱気を吸って負傷しました。

写真1 出火場所の状況



写真2 ゴム手袋の焼損状況



事例2 消臭制汗スプレーの穴あけにより発生した火災

(平成24年8月・板橋区・共同住宅)

居住者の40代男性が、浴室内で消臭制汗スプレー缶のガス抜きをした後、シャワーを浴びるために風呂がまを点火したところ、点火の際に発生した火花が、浴室内に充満していたガスに引火して爆発したものです。この火災により、行為者の男性が、引火した炎により腕と足をやけどしました。

写真3 出火場所の焼損状況



写真4 浴室天井の破損状況



本火災の爆発による破損箇所

事例3 燃料ボンベの穴あけにより発生した火災

(平成23年11月・小金井市・共同住宅)

居住者の80代男性が、ダイニングキッチンのシンク内で燃料ボンベに残っていたガスを抜こうと缶に穴をあけたところ、ガス湯沸器のバーナの炎が、漏れたガスに引火して出火したものです。この火災により、行為者の男性が引火した炎により顔と手をやけどしました。

写真5 出火箇所の焼損状況



写真6 シンク内の焼損状況



【実験映像】

1 カセットこんろの側でエアゾール缶等の穴あけをした場合

(1) カセットこんろの側でエアゾール缶等の穴あけをした状況



(2) 穴あけにより噴出したガスに引火した状況



(3) ガスに引火後、延焼拡大した状況

